

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第38週 (9/19-9/25) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		38週	37週	36週	35週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	16	18	18
	眼科	5	4	5	5
	インフルエンザ*	28	24	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千		葉		市		千葉県
		注意報	9/19-9/25	9/12-9/18	9/5-9/11	8/29-9/4	9/12-9/18	
			38週	37週	36週	35週	37週	
小 児 科	RSウイルス感染症	○	19 1.06	11 0.69	17 0.94	18 1.00	241 1.83	
	咽頭結膜熱		0 0.00	2 0.13	2 0.11	0 0.00	21 0.16	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		20 1.11	35 2.19	38 2.11	29 1.61	329 2.49	
	感染性胃腸炎		46 2.56	78 4.88	82 4.56	75 4.17	406 3.08	
	水痘		5 0.28	3 0.19	11 0.61	3 0.17	25 0.19	
	手足口病		27 1.50	19 1.19	38 2.11	27 1.50	212 1.61	
	伝染性紅斑		1 0.06	1 0.06	3 0.17	3 0.17	11 0.08	
	突発性発しん		6 0.33	10 0.63	22 1.22	11 0.61	64 0.48	
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.02	
	ヘルパンギーナ		23 1.28	29 1.81	49 2.72	53 2.94	173 1.31	
	流行性耳下腺炎		4 0.22	8 0.50	5 0.28	5 0.28	85 0.64	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフル エンザを除く)		2 0.07	2 0.08	8 0.29	1 0.04	21 0.10	
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性角結膜炎		2 0.40	4 1.00	3 0.60	6 1.20	27 0.82	
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	
	マイコプラズマ肺炎		2 2.00	1 1.00	0 0.00	2 2.00	11 1.22	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査等	腸管出血性大腸菌感染症	男性	10歳未満	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	男性	50歳代	IGRA検査		女性	20歳代	
結核	男性	60歳代	IGRA検査	梅毒	男性	50歳代	血清抗体の検出
結核	男性	60歳代	IGRA検査	-	-	-	-

・第38週は、結核4件(187)、腸管出血性大腸菌感染症2件(15)、梅毒1件(20)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第38週のコメント

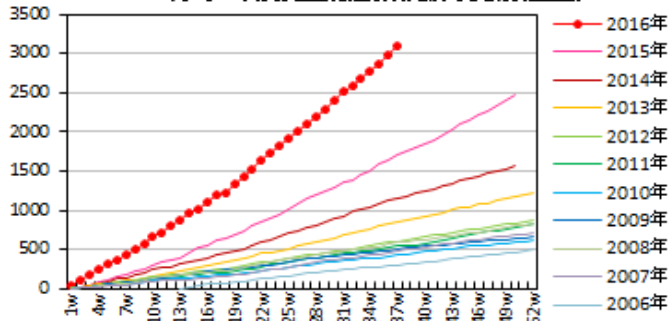
＜RSウイルス感染症＞前週から増加し1.06となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

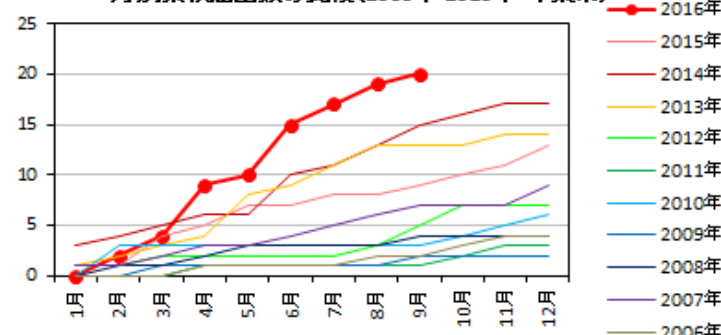
<梅毒>

全国レベルの第37週の累積届出数は3091件で、過去9年で最も多かった2015年を上回り最多となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県の順に多く報告されています。千葉県は全国第7位となっています。千葉市では第38週に1件の発生届があり累計が20件となり、過去10年で最多であった2014年を上回り最多となっています。性別では男性が45.0% (9名)、女性が55.0% (11名)と女性が多くっており、年齢階級別では20歳代 (30.0%:6名)、10歳代 (20.0%:4名)、50歳代及び80歳代 (共に15.0%:3名)の順に多くとなっています。また、病型は早期顕症梅毒Ⅰ期 (30.0%:6名)、早期顕症梅毒Ⅱ期 (35.0%:7名)、晩期顕症梅毒 (5.0%:1名)、無症状病原体保有者 (30.0%:6名)で、感染経路は性的接触 (85.0%:17名)、輸血 (5.0%:1名)、不明 (10.0%:2名)で、性的接触の内訳は異性間 (64.7%:11名)、同性間 (5.9%:1名)、不明 (29.4%:5名)となっています。

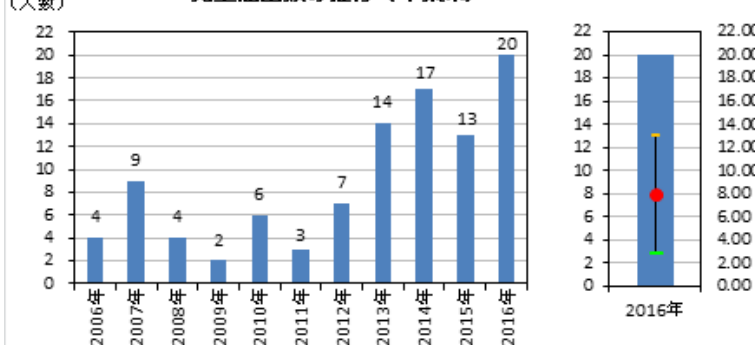
(人数) 梅毒:年別発生報告累積数の比較(全国)



(件数) 月別累積届出数の比較(2006年-2016年:千葉市)



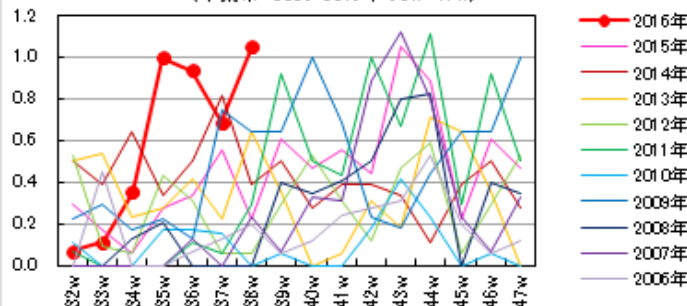
(人数) 発生届出数の推移(千葉市)



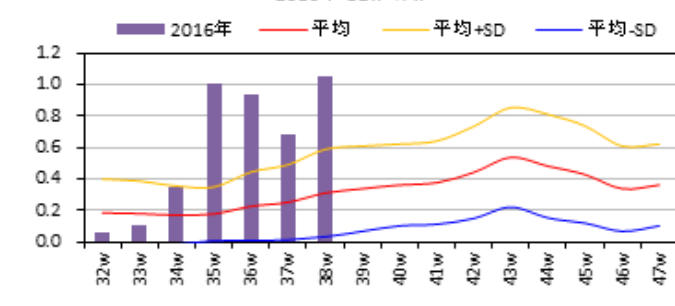
<RSウイルス感染症>

全国レベルは第34週から連続して過去9年の同時期と比べると最多となっており、第37週も同様となっています。都道府県別では、新潟県、徳島県、山形県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の第38週は前週より増加し1.06となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、緑区 (3.0/定点)で最多となっており、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から第38週までの累積報告数(n=47)によると、性別では男性が61.7% (29名)、女性が38.3% (18名)で、年齢階級別では1歳 (48.9%:23名)、6~11か月 (25.5%:12名)、0~5か月 (12.8%:6名)の順に多くとなっています。

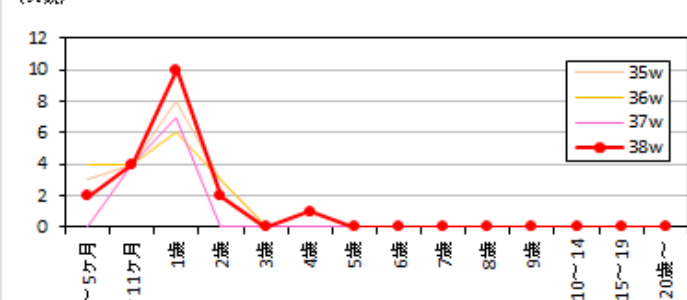
各シーズンの定点当たりの報告数
(千葉市:2006-2016年 32w-47w)



過去10年間との比較
2016年 32w-47w



(人数) 定点からの報告数の推移(直近4週分)



定点からの報告数
2016年 36w-38w n=47

